

一身にして二生を経(ふる)

黒田 瑞星

1月6日は私の誕生日。晴れて60歳になりました。タイトルの「一身にして二生を経る」は井上ひさしが「四千万歩の男忠敬の生き方」の中で、伊能忠敬を評した言葉です。「定年後」という本がベストセラーになる時代。第二の人生の送り方は、この国の（特に男性の）大きな課題になっています。

人生の黄昏を私はどう生きるのか。黄昏は、マジックアワー。刻々とその色を変えていきますが、「自立」・「家族」・「社会」をキーワードにすると、「古本屋のオヤジ」になることに傾きかけています。

家族には、今年のお正月に私の気持ちを伝えました。まだまだ、具体的な所まで話が進んでいないので、雲をつかむような話だと思ったことでしょう。

昨年「古本屋のオヤジ」になるための勉強を始めました。一番最初に読んだ本が、田中美穂さんの「わたしの小さな古本屋」という本でした。この方は「星とくらす」の著者で、倉敷の美観地区で「蟲文庫」という古本屋を経営されています。

1月6日、還暦の誕生日に倉敷を訪れました。星野仙一さんの訃報を知り、「今日いかななくては…」と思ったからですが記念館を出た後、「蟲文庫」へ。

田中さんのお母さんが波賀町の方だったこともあり、親しくお話をさせていただいた上、著書にサインもいただきました。田中さんに「古本屋になるには…」ということは相談できませんでしたが、少し背中を押してもらったように思いました。

実際に動き出すかどうか、まだ未定です。ましてや「いつ」「どこで」「どんな」などは、まだまだお話できませんが、やがてできる「図書目録」ご希望の方は、メール等でお知らせください。（1000冊以上の天文関係書籍があると思いますよ）

夢のようなことばかり言っていますが、とりあえず今年は、「火星」と対していきます。そして「星なかま☆ひめじ」での活動を増やし、「天体望遠鏡博物館」での活動を続けていくことにします。

また、「明石市立天文科学館の年間パスポート」をはじめいろいろな年パスを購入したり、「新しいサークル活動」での活動を始めたりしていきたいと思っています。

今年もよろしくお願いたします。

